

（2）今回の地震の発震機構（注2）

今回の地震の震央周辺の発震機構の分布をみると、インド・オーストラリアプレートの沈み込みに伴い、逆断層型の地震が多く発生している（図2-1）。また、ジャワ島内陸部で発生する地震を含めて、概ね北北東-南南西方向に圧力軸を持つ型が多い（図2-2）。今回の地震の発震機構の圧力軸の向きは北東-南西方向であり、その傾向と調和的である。

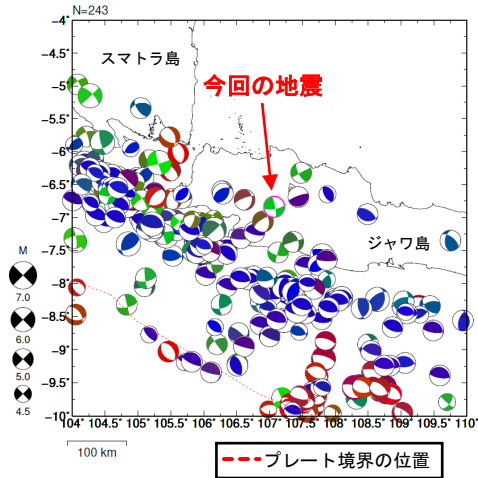


図2-1 図1-1の発震機構分布図
（1980年1月1日～2022年
11月30日、深さ0～100km、
M $\geq$ 4.5）

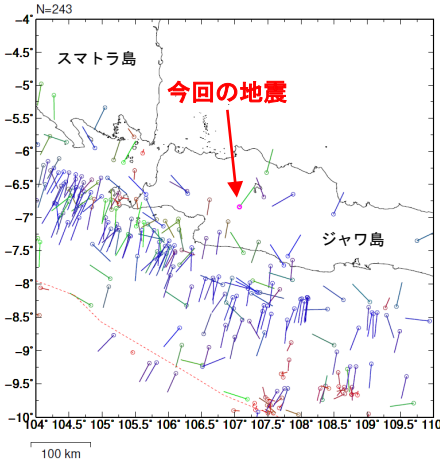


図2-2 図2-1の発震機構の
圧力軸の向きの分布

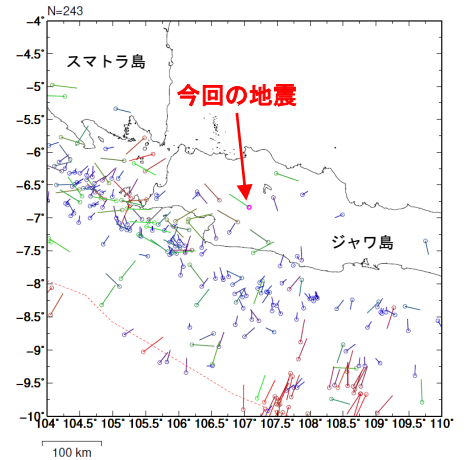


図2-3 図2-1の発震機構の
張力軸の向きの分布

（3）過去に発生した主な地震（注3）

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺では、M7.0以上の地震が度々発生しており、死者1,000人以上となるような大きな被害をもたらす地震が多く発生している（図3-1、図3-2）。

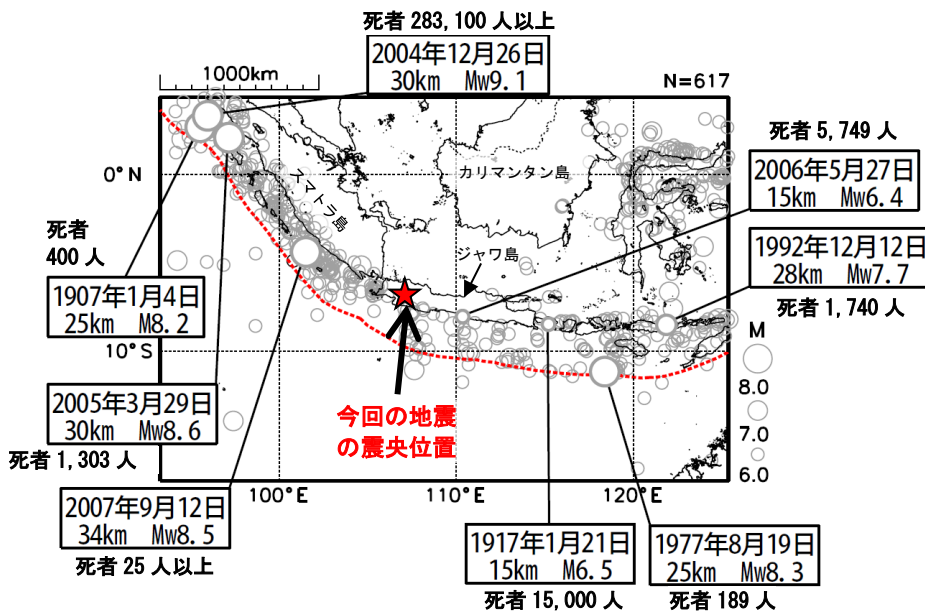


図3-1 震央分布図（1904年1月1日～2022年11月30日、
深さ0～100km、M $\geq$ 6.0）
2022年11月の地震を濃く表示。吹き出しはMw8.0以上
または被害が死者1,000人以上の地震。

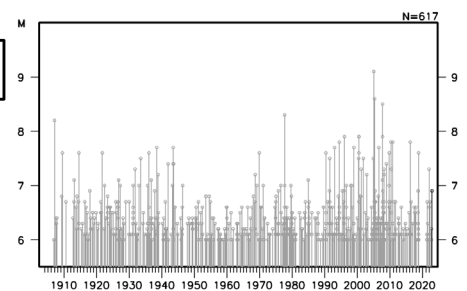


図3-2 図3-1のM-T図

（注2）震源要素及び発震機構はGlobal CMTによる。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置と進行方向はBird (2003)より引用。

（注3）震源要素は、2018年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 9.1 (1904-2018)、2019年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2022年12月7日現在)。ただし吹き出しを付けた地震のMwは、2004年12月26日の地震はUSGS、それ以外の地震はGlobal CMTによるモーメントマグニチュード。地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。